

「自己を表現し、友達と関わっていく子どもを育てる指導はどうあったらよいか」

- N I Eを通して -

実践校 第1年次 阿南町立富草小学校 早野 洋一

本校のNIEの現状

本校は児童数が少なく、幼少の頃から少人数の同じ集団の中で育ってきたために、ものの見方や友達関係が固定化しがちである。そのため、自分の思いや考えをすすんで表現したり、子ども同士が関わり合いながらそれを広げ深め合うことにやや難がある。そこで、本年度は「自己を表現し、友達と関わっていく子どもを育てる指導はどうあったらよいか。」を全校研究テーマにして、その改善に向けて取り組んできた。

N I E活用研究グループでは、研究初年度として、

- 1 新聞に関わる児童の実態を調べること
- 2 どの学年のどの教科・領域・単元でN I Eを活用できそうかを検討すること。
- 3 N I E実践事例の集積を重点的に研究することにより、標記研究テーマに迫ることができると考えた。

N I E実践のねらい

本校の研究テーマである「自己を表現し、友達と関わっていく子どもを育てる指導はどうあったらよいか」をもとに、本校では、N I Eを通して高めていきたい力を次のように考えた。

- 1 総合的に思考判断しようとする力

資料集めや取材を通して、自分なりに考えをまとめたり新聞を作ったりすることにより社会事象に関心を持ち、情報を活用しようとする力や集めた情報をもとに多角的・総合的に思考・判断する力を高める。

- 2 コミュニケーションする力

文章や記事から読み取ったことをすすんでまとめたり発表したり、友達どうして話し合ったりすることにより、友達と積極的に関わっていく力を高める。

研究の概要

- 1 実践した教科 国語：2、3、4年 図画工作：4年

- 2 新聞の提供状況

(1) 09年度 購読計画表

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
朝日小学生							
毎日小学生							
読売							
産経							
信濃毎日							
中日							

(2) 新聞の配置

2階4年教室前廊下に長机を設置して一般紙を、1階職員室前廊下掲示板に小学生新聞を掲示して日常的に児童の目に触れるように配慮した。

(3) 新聞を取り入れた実践をする上で工夫をしたこと

「新聞に親しむ」ことに重点を置いた活動を意識した。記事の読み取りから入るのではなく、見出しや写真を切り取りスクラップを行ったり、新聞写真の切り抜きを組み合わせた作品作りを行ったりした。

新聞作りを行う際に、信濃毎日新聞社の記者の方に出前授業をしていただき、新聞製作の要点や過程を教えていただいた。

国語学習の補助教材的役割として使用した。新聞記事から熟語を探したり、難読漢字を探したりした。

NIE実践の内容

1 2年生の実践

(1) 単元名「カタカナで書く言葉」

〔A新聞で学ぶ-1〕(国語 全3時間扱い)

(2) 新聞の扱い

新聞1枚の中からカタカナで書かれた言葉を探す

(3) 単元のねらい

新聞記事の中から抜き出したカタカナで書かれた言葉を用法別に分けたりカタカナのカルタを作ることを通して、カタカナはどのような言葉を表記するときに使われるかを理解する。

(4) 授業の実際(第1時 「新聞から『カタカナで書かれた言葉』を探そう」より)

時間を決め、2人組で1枚の新聞の記事や広告の中からカタカナで書かれた言葉を探し、赤丸を付け書き抜くゲームをした。書き抜いているうちに、外国の人の名前や地名がたくさんあることや、テレビ欄や株式欄にはカタカナで書かれた言葉がたくさんあることに気が付いた。2人組で学習したため、カタカナを拾い出しながら意味を話し合う様子が見られた。

2 3年生の実践

(1) 単元名「私のお気に入り写真」

〔A新聞で学ぶ-2〕(国語 全4時間扱い)

(2) 新聞の扱い

お気に入りの新聞写真を切り抜いて集める。

(3) 単元のねらい

お気に入りの新聞写真を集め、その中から最も気に入った写真を選び発表する活動を通して、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えたり、友だちの選んだ写真について感想を出し合うことができる。

(4) 授業の実際

新聞写真を切り抜く活動は、初めての子どもが多かった。どの子どもも1枚切り抜くと、次の写真、その次の写真というようにどんどん切り抜き、画用紙に貼っていった。

3 4年生（実践学級）の単元学習の報告から

（1）単元名 「材料の選び方を考えよう」

（2）単元設定の理由

4年生は、6月の社会科見学のまとめとして新聞作りを行った。割り付けや見出しについては教科書「新聞記者になろう」や信濃毎日新聞社の方のアドバイスをうけて4年生なりに工夫をして作り上げることができた。しかし、写真の使い方については、「使うことで目立つ」「写真は目につきやすい」ということは学習したものの、どのように使いこなせばいいのかまで学習を進めることができなかった。そのような中ではあったが、完成した新聞を見ると、善光寺だから善光寺。県庁だから県庁。というように写真を使っている児童がいる一方で、見出しにあった写真を選んでいる児童や加工している児童、記事の内容に近い写真を選んでいる児童も多いた。

本単元「材料の選び方を考えよう」は、2つの教材から構成されている。前半教材「アップとルーズで伝える」で、テレビや新聞等を通して、私たちに届けられている映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されていることを、映像技法である「アップ」と「ルーズ」を通して学んでいく。後半教材「4年3組から発信します」では、自らが情報発信者として、情報の収集、相手や目的に応じた情報の選択、発信を体験する単元となっている。本単元では後半教材の中で新聞作りを行い、自分たちで調べてまとめたものを発信しようと考えている。

特に本単元の新聞作りでは6月の新聞作りでは扱えなかった「写真の使い方」に着目して、学習を進めていきたい。前半教材で、映像技法である「アップ」と「ルーズ」の写真と比較しながら長所と短所があることを学習し、それらを使い分けることによって送り手は伝えたいことを表現していることを読み取る。後半教材では、伝えたい内容に合わせて適切に写真を使えるようにした。

また、前半教材に入る前に、「アップ」と「ルーズ」に加工した2枚の写真を複数用意し、その中から見出しにふさわしい写真を選ぶ活動を取り入れることで、前半教材「アップとルーズで伝える」への導入につなげたい。

（3）単元の目標

映像技法の一つである「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を読み取ることができる。〔C読むこと(1)イ〕

送り手として一番伝えたいことを受け手に伝えられるように、材料を選び新聞にまとめることができる。〔B書くこと(1)ア(2)イ〕

完成した新聞を発表し合い、材料の使い方のよさについて考え、今後にかかすことができる。〔B書くこと(1)カ〕

伝える相手にあわせて適切な言葉遣いで発表することができる。

〔A話すこと・聞くこと(1)イウ〕〔B書くこと(1)エ〕

（4）指導上の留意点

「アップ」と「ルーズ」の特徴がはっきりしている写真を用いる（写真に加工する）。提示する写真は、子どもの生活に身近なものを使用し、風景、人、表情などはっきりと表現されている物を用いる。

新聞作りを始める前に、誰に何を伝えるのかを明確にしてから取材活動を行わせる。

(5) 単元計画

段階	学習活動の流れ	評価の観点
一次	<p>(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月に作った新聞から、自分のがんばりを振り返る。 ・ 見出しにふさわしい写真を「アップ」と「ルーズ」に加工した、2枚の写真の中から選ぶ。 ・ 写真をアップとルーズに仲間分けをする。 ・ 教科書を使って「アップ」と「ルーズ」の使い方を読み取っていくことを伝える。 	<p>見出しにふさわしい写真を選ぼうとしているか。</p> <p>本時を受けて、次時からの「アップとルーズで伝える」の学習へ、意識を向けることができたか。</p>
二次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アップとルーズで伝える」を読み学習内容を確認する。 ・ 写真と文章の関係に注意をしながら、 、 段落を読む。 ・ 、 段落と 段落の関係をとらえる。 ・ 写真と文章の関係に注意をしながら、 、 段落を読む。 ・ 、 段落と 段落の関係をとらえる。 ・ 、 段落を読み筆者の伝えたいことをとらえる。 ・ 各段落に小見出しをつけて、さらに段落のまとまりを考えて大見出しをつける ・ 段落構成を図にまとめる。 	<p>「アップとルーズで伝える」を通読し、前時学習したことを想起させながら、今後読み進めることに意欲を持っているか</p> <p>写真と対応させながら文章を読むことができるか。</p> <p>「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味、それぞれの長所と短所、目的に応じて使い分けられていることがわかるかどうか。</p> <p>段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいるかどうか。</p>
三次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「4年3組から発信します」を読み、活動の見通しを持つ。 	<p>「アップ」や「ルーズ」で撮られた写真を使って、自分たちが知らせたいことや相手が知りたいことをまとめる活動に意欲を持っているかどうか。</p> <p>グループごとの活動に積極的に加わり、何をどの</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書作例の工夫に気づく。 ・新聞にする題材をきめる。 ～ ・取材をする。 ・材料を選び、記事を書いたり割り付けをしたりする。 ・下書きをし、互いに読みあう。 ・清書をし、仕上げる。 ・作った新聞を発表する。 ・コラム「選んで伝える」を読み単元のまとめをする。 ・教材文を読み返し、自分たちの活動を振り返る。 	<p>ように伝えるのか、自分の考えを持っているかどうか。</p> <p>友達の意見も取り入れながら、意欲的に作業に取り組んでいるかどうか。</p> <p>相手や目的に応じて、材料を選び、わかりやすくまとめているかどうか。</p> <p>自分の取り組みについて、教材文で述べられたことを視点に振り返り、自分の考えを持っているかどうか。</p>
---	--

(6) 本時案

主眼

見出しにふさわしい写真を選んだり、その写真を「アップ」と「ルーズ」に仲間分けしたりする活動を通して、映像技法である「アップ」と「ルーズ」の意味を知り、次時の学習への意識をもつ。

本時の位置

全19時間中の第 時

次 時：教科書単元「アップとルーズで伝える」に入る。

指導上の留意点

「アップ」と「ルーズ」の違いがはっきりしている写真を用意する。

展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導 評価	備考
導入	1. 6月に行った新聞作りを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・見出しを考えるのをがんばったな。 ・写真を使って新聞を作れてよかったな。 ・もう少し、字を大きく書けば良かったな。 	2	今までの新聞作りを振り返る程度にする。	
	2. スクラップした写真を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットがジャンプしているのがわかる写真だ。 ・見出しを読むと、8cmジャンプしたことがわかるね 	5	写真と見出しがあうとより伝わることを確認する。	写真

<p>展 開</p>	<p>3. 見出しにふさわしい写真を選ぶ。</p> <p>4. 写真を仲間分けし、「アップ」と「ルーズ」の撮影技法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生の肩にハトが・・・」だから先生が写っている写真がふさわしいと思うな。 ・AとBを比べると、Bはハトしか写っていないから、見出しにふさわしいのはAの方だと思うな。 ・「善光寺に人人人」だから、善光寺とたくさんの人が写っているほうがふさわしいな。 ・人と善光寺が写っているBの写真の方が見出しにふさわしいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・どアップな写真と全体が広く写っている写真とに分ければいいんだな。 ・絵がどでかく写っているから、こっちの仲間だな。 ・この写真は、全体が広く写っている写真の仲間になるな。 ・1か所を大きく写す撮り方を「アップ」、全体を広く写す撮り方を「ルーズ」っていうんだ。 	<p>2 0</p>	<p>「どうしてそう考えたのか」を問い返し、理由を発表させる</p> <p><u>見出しにふさわしい写真を選ぶようとしているかどうか。</u></p> <p>B 評価 見出しにふさわしい写真を選んでいる。 〔C 評価児に対する支援〕 ・見出しの言葉をみて写真のなかに写っていない物と一緒に見つける。</p> <p>1 0</p> <p>どのような観点で分ければいいのかをはっきりさせるために、最初に担任が見本を例示する。</p> <p>仲間分けをした後「アップ」と「ルーズ」の撮影技法について押さえる。</p>	<p>写真 見出し パソコン テレビ</p>
<p>終 末</p>	<p>5. 本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来週から「アップ」と「ルーズ」についてさらに勉強していくんだ。 ・教科書ではアップとルーズについてどんなことが書かれているんだろう。 ・見出しにふさわしい写真選び、楽しかったな。 ・みんなの考えが聞けて良かった。 	<p>8</p>	<p><u>次時以降の学習へ意識を向けることができたか。</u></p> <p>B 評価 本時の活動を振り返り次時からの学習へ意識を向けている。 〔C 評価児に対する支援〕 ・次時の導入で本時の板書を提示し、見出しと写真との関係を振り返らせる。</p>	<p>発言・表情</p>

(7) 授業の記録と考察

【見出しにふさわしい写真を選ぶ時の判断基準を考え合う】

T：見出しにふさわしい写真を選んでもらったんだけど、選ぶときに注意したことはありますか。

C5：善光寺のやつで、見出しの「善光寺」という言葉を基準にして、次の写真<写真1-B>を見たら善光寺がなかったから、こっち<写真1-A>の方がふさわしいと思った。

T：言葉がしっかりと写真にも表れている方がよいというのがC5くんの基準なんだね。他の意見ありますか。

T：C1さん。

C1：私は、「善光寺」とか、「早野先生の肩に」とか、「子どもたちが」とか、見出しに書いてあるけど、例えば、これは見出しに、「子どもたち」って書いてあるけど、これ<写真3-A>は子どもが写っていないし、机って（見出しに）書いてあるけど、これ<写真4-A>は机が小っちゃ過ぎてよくわからないし、善光寺って（見出しに）書いてあるけど、こっち<写真1-B>は写っていないく

て早野先生の肩に（見出しに）書いてあるけど、こっち<写真2-B>は早野先生が入っていないくて、どれも見出しの言葉が写っていないと写真がよくわからない。

T：見出しの言葉が写真に写っていないといけない、というのが基準なんだね。

～中略～

T：みんなの意見を聞いていて、見出しにふさわしい写真というのは、見出しの言葉が写真にしっかり表れていないといけない、というのが判断基準といえそうだね。

「善光寺、人、人、人」



写真1-A

写真1-B

「早野先生の肩にハトが」



写真2-A

写真2-B

「子どもたちがもちつき」



写真3-A

写真3-B

「村井知事の机があったよ」



写真4-A

写真4-B

<考察>

この前の場面で、5つの見出しに、「アップ」と「ルーズ」で撮られた1枚ずつの写真を用意し、見出しにふさわしい写真選びを行った。違いがはっきりしている写真を用いたことで、多数の意見が出て意見交換が活発に行われた。その中で、C6児は、見出しにある「善光寺」という言葉に着目し、写真選びを行ったと発言した。さらに、C1児は「見出しに書いてある言葉が写真に写っていないとふさわしくない。」と発言した。これらの発言から、「写真を選ぶときは、見出しの内容が写真に含まれていないといけない。」ということがクラスでの判断基準として確認された。

【児童が次時への活動に意欲を見せた場面】

T：今みんなでこういう（一部分の写真と全体を大きく写してある写真）風に分けました。ここで一つ、言葉を覚えてもらいたいと思います。撮影での、カメラマンの人の技の一つで、全体を広く写しているような写真の撮り方を・・・

C 6：アップ？

C 4：アップ？

T：おいしい。

C 9：ルーズ。

T：何で知っているの？

C 4：だって教科書に書いてあったんだもん。

C 10：ちょっと待って。これ教科書にのっているよね。

T：これは「ルーズ」という撮り方です。

T：と、言うことは、一部分を大きく撮るような撮り方を？

C：アップ。

T：そう、「アップ」すばらしい。

C 10：先生、教科書に「アップとルーズで伝える」ってあるよ。

T：おお～。

C 4：それ読んだからわかったんだよ。

C 10：教科書の18ページ。

T：来週から、C 10くんが教えてくれた18ページの「アップとルーズで伝える」の学習を進めていきます。「アップ」や「ルーズ」の使い方や意味について勉強をしていきたいと思います。

授業の終末である。アップとルーズの用語をまとめる場面の中で、児童自ら教科書を開き今日の授業の内容が載っていることを口々に発言した。今回は教科書への導入として授業を仕組んだ。アップとルーズの違いがはっきりしている写真を用いて写真選びを行ったことで授業のポイントとなる、アップとルーズの意味や見出しにあった写真を選ぶといった内容が子どもたちの中から発言された。この結果、次時への意欲を持つことができた授業になったと考える。

研究のまとめ

見出しにふさわしい写真を選ぶという活動や、記事の内容をよりはっきり伝えるための写真の技法（アップやルーズ）を学ぶことにより、新聞を作る側、読む側それぞれの立場に立って考えることのできる子どもが育ちつつある。

子どもによって新聞の中のどんな記事や写真に興味を持つかが違う。また、同じ記事や写真でも受け取り方が異なる。実際の新聞に対しての発表や新聞作りを通して、まだ理解が不十分だった友達の考え方やものの見方等に気づける子どもが育ちつつある。

残された課題

子どもたちが新聞に触れる活動を継続することが大切である。日々の生活の中で、新聞を開く習慣をつけていくにはどうしたらよいか。生活に根ざしたNIEについて今後研究を積み重ねたい。